

株式 MEMO

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	3月31日、9月30日
公告掲載方法	電子公告の方法により行います。 ただし、電子公告によることができない事故 その他やむを得ない場合が生じた場合には、 日本経済新聞に掲載して行います。 公告掲載URL：http://www.ina-research.co.jp/
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 ● 電話：0120-244-479（本店証券代行部） （24時間受付：自動音声案内） ● URL：http://www.tr.mufg.jp/daikou/ なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、 お取引口座のある証券会社にご照会下さい。
同取扱場所	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
同取次所	三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
名義書換手数料	無料
新券交付手数料	無料

当社のホームページでも
詳しい情報を同時に開示しております。
ぜひ併せてご覧ください。

http://www.ina-research.co.jp/

イナリサーチ

検索



〒399-4501 長野県伊那市西箕輪2148番地188
TEL 0265-72-6616 FAX 0265-72-6657

株主通信

2010年3月期第2四半期
(2009年4月1日～2009年9月30日)

売上高 (前年同四半期比) 3.8%減

1,579百万円

経常利益 (前年同四半期は経常利益90百万円)

△24百万円

四半期純利益 (前年同四半期は四半期純利益34百万円)

△25百万円

1株当たり四半期純利益

△841円55銭

注記事項
※本報告書は11月10日発表の四半期決算短信の数値、
文章を基に作成しております。その後に発表される可能
性がある訂正情報や業績予想の修正情報や決算の詳細に
つきましては金融庁 EDINET、当社ホームページ掲載資
料にてご確認ください。
※本資料に記載されている業績見直し等の将来に関する
記述は、当社が現時点において入手可能な情報に基づい
て作成しておりますが、実際の業績等は様々な要因によ
り予想と異なる結果となる場合があります。

株主のみなさまへ



代表取締役社長

北川 伸彦

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び
申し上げます。平素は格別のご高配とご支援を賜り、誠にありが
たく厚く御礼申し上げます。

2010年3月期第2四半期を終了いたしましたので、ここに
ご報告いたします。

当第2四半期の業績は売上高は1,579百万円（前年同四半
期比3.8%減）、経常損失24百万円（前年同四半期は経常利益
90百万円）、四半期純損失は25百万円（前年同四半期は四半
期純利益34百万円）、1株当たり四半期純損失は841円55銭
となりました。

受注が計画に達せず、一方償却費等固定費は増加したため収
益は厳しいものとなりました。しかしながら、製薬企業は新薬開
発に向けた研究開発費を増加しており、かつ新薬開発過程にお
ける信頼できる受託試験研究機関（CRO）へのアウトソーシ
ングの重要性は広く認識されていることから、当社は短期的な受
注動向に捉われることなく、優秀な人材の確保・育成に取組み、
さらに基幹となる試験管理コンピュータシステムを更新し情報処
理の迅速化を図っております。

当社は製薬企業のニーズにお応えし、技術の更なる蓄積を図
り、販路拡大のための営業活動の強化に取り組んでまいります。
今後とも一層のご支援とご鞭撻を賜りますよう、心よりお願い申
し上げます。

2009年12月

季節変動について

当社顧客製薬企業の予算執行および予算計上の都合上、第4四半期に
売上が集中する傾向がございます。また第1および第3四半期について
は終了する試験数が少なく、例年売上が落ち込む傾向がございます。

事業別の概況

■ 医薬品非臨床試験事業

第2四半期における当事業の売上高は1,521百万円、営業利益は86百万円となりました。一部大手製薬企業が世界不況や株式市場の不透明感から慎重な投資判断を行ったことや、開発過程での製品の絞込みを実施したこと、さらには医薬品バイオベンチャーの業績悪化などによる非臨床試験分野への委託の減少、加えてCRO間での競争激化により試験の受注が伸び悩みました。

昨年7月に新棟を竣工し、併せて増員及び人材教育を実施してまいりましたが、受注伸び悩みのため同新棟の稼働率が当初予想に達せず、償却費の負担や人件費等固定費増加分をカバーするに至らなかったことから、売上は伸び悩み、利益率は計画より大幅に低下いたしました。

■ 臨床試験事業

当事業においては、ThoroughQT/QTc試験(サロ・キューティー/キューティーシー試験)用新施設の建設を着工いたしました。この試験は、かねてより当社が新規事業として取組んでおりましたが、この度ガイドライン「非抗不整脈薬におけるQT/QTc間隔の延長と催不整脈作用の潜在的可能性に関する臨床的評価」(厚生労働省 医薬食品局 平成21年10月23日)が発出され大きく前進したことから、今後はさらにスピードを上げ事業化に向けた取組みを強化してまいります。現在のところ設備投資が先行することから営業損失31百万円となりました。

■ その他事業

当事業においては、環境関係では保守業務と消耗品の販売が中心で、食品関連試験では小規模の試験が多く、売上高は57百万円、営業損失54百万円となりました。

業績の予想について

最近の業績動向を踏まえ、平成21年8月11日に公表した業績予想を平成21年11月4日に下記の通り修正いたしました。

■ 2010年3月期業績予想

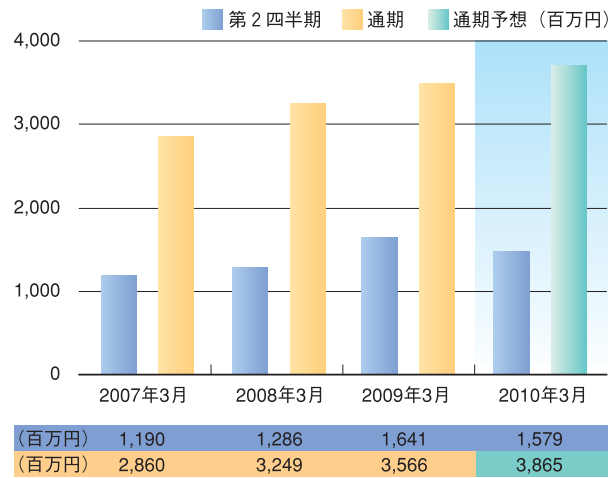


修正理由：

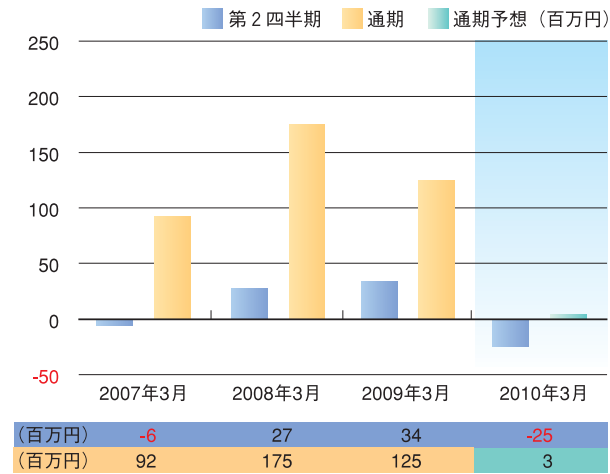
医薬品非臨床試験事業は、M&A投資等で一時的に外注を手控えていた国内大手製薬企業からの受注が回復しつつありますが、回復のスピードは当社の当初予測より緩やかであります。一方、欧州及びアジアからの受注が増加しており、下期に欧州の営業拠点の設立とアジアへの営業強化を図ることから、受注については国内の厳しい状況をカバーできるものと見込んでおります。しかしながら今までの受注低迷による影響が売上・利益のいずれに対しても大きく、今後獲得する受注が今期の業績に直接貢献する度合は軽微であることから、前回発表した業績を確保することは困難であるものと判断いたしました。

業績の推移

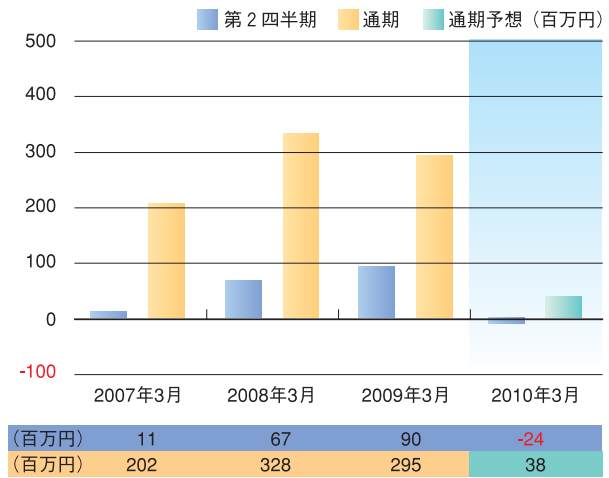
■ 売上高



■ 四半期(当期)純利益



■ 経常利益



■ 1株当たり四半期(当期)純利益

